

「神奈川自然誌資料」投稿規程

1 目的と内容、編集方針

- (1) 本誌には神奈川県とその周辺地域の自然誌（史）に関する未公表の原著論文、総説、報告を投稿することができる。投稿される内容は、生物学（動物学、植物学）、地球科学（地質学、地形学、古生物学）および科学史に関するものを原則とする。
- (2) 発行は年1回で、10月31日を原稿締切日、翌年3月20日（あるいはその前後）を発行予定日とする。締め切りを過ぎて投稿されたものは次年度への投稿として扱う。
- (3) 本誌は査読誌である。原稿は編集委員会の方針に基づき適切な査読者によって査読され、その採否や掲載の順序は査読結果を参考に、編集委員会の決定に全て一任されるものとする。なお、原稿の受付（受領）に際し原稿の体裁や内容に著しく不備がある場合は、編集事務担当の提案の後、編集委員長の同意を経て受領却下（エディターリジェクト）を行うことがある。
- (4) 本誌はプレプリントサーバやそれに準じた方法（プレスリリース等を含む）で公開された著作物を受け付けない。またその引用を認めない。受付後や受理後にそのような行為が発覚した著作物は却下もしくは取り下げとなる。
- (5) 本誌は二重投稿を認めない。受付後や受理後にそのような行為が発覚した著作物は却下もしくは取り下げとなる。

2 投稿・査読・改訂・著者校正

- (1) 原稿は論文の区分等を記入した投稿カードや図表ファイルとともに編集事務担当（URL: <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1600328475744/index.html>）のメールアドレスに電子投稿する。一通のメールのサイズはセキュリティーの関係から10MBまでとし、ファイルサイズが大きい際は、複数のメールで分割投稿するか、ファイル転送サービスによる送付、あるいはCD-Rなどの電子媒体による郵送等で行う。論文の区分は著者への指針を参考に著者が選択する。
- (2) 投稿者と編集事務担当のやりとりや査読結果の通知は、原則電子メールで行う。査読についても同様であるが、査読者の希望により郵送・朱書きのやり取りを行うこともある。

(3) 査読結果は以下のように分類するものとする。

ア 受理（アクセプト）

原稿がそのままの状態、あるいはごく軽微な修正ですぐに受理できるもの。

イ 小修正（マイナーリビジョン）

原稿の一部において、軽微な修正を加えることが望ましい事項や、細かな修正点があるもの。一次査読終了後の改訂期間中（約 20 日間）に修正が十分に望めるもので、再査読（二次査読）の必要がないもの。

ウ 大修正（メジャーリビジョン）

原稿の一部において、大幅修正を加えることが望ましい事項や、論理的に不十分な点、その他修正点があるもの。一次査読終了後の改訂期間（約 20 日間）に修正が十分に望めるもので、再査読（二次査読）の必要があるもの。

エ 今号への掲載不可（再投稿可能なリジェクト）

原稿の大幅な改訂が必要であり、査読者あるいは編集委員会により一次査読終了後の改訂期間（約 20 日間）中での修正は時間的に難しいと判断されるが、修正を加えることによって、次号以降の掲載見込みがあるもの。

オ 完全に掲載不可（リジェクト）

内容に大きな矛盾点や論理的な誤りがある場合、論証に足る証拠が不足している場合、さらに修正を加えても受理できないと判断されたもの。

(4) 論文が受理された場合は、編集委員会による修正の依頼等を反映した原稿と図版を編集者に送付する。詳細については編集事務担当より連絡する。

(5) 掲載論文の著者校正は初校のみとする。詳細については編集事務担当より連絡する。

(6) 論文は PDF 形式で著者に進呈する。

(7) 掲載論文は当館ウェブサイト

(URL: <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1599725880823/index.html>)

および J-STAGE (URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/nkpmnh/-char/ja>) において、電子ファイルにて公開するものとする。なお、論文の著作権は当館が所有するものとする。

(8) 論文の内容に関する責任は著者個人が負うものとする。

附則. 本規程は 2018 年 12 月 1 日から実施する (2018 年 12 月改訂)

2020 年 5 月 14 日 改訂 2023 年 11 月 2 日 改訂

2022 年 5 月 25 日 改訂

2023 年 5 月 31 日 改定

「神奈川自然誌資料」著者への指針

投稿を考えている方は、この「著者への指針」に必ず目を通し、事前に原稿の体裁や内容を整えること。

1 投稿について

科学論文の書き方については各種市販されている書籍等を参考にする。投稿に際し、可能であれば事前に当該分野の専門家の校閲を受けることが望ましい。共著者がいる場合、必ず共著者間で原稿のチェックを終えたのちに投稿する。また、以下の点は査読者からよく指摘があるコメントであり、特に注意すべき点である。

- (1) 原稿はなるべく簡潔明瞭、短くすることに努める。不必要に長い考察や、論理的に曖昧な推定の羅列はなるべく避ける。
- (2) 原稿で用いる各種表現については、当該分野の学術雑誌をよく読み、文書の構成や論理的な表現について十分に参考にする。学術雑誌は県立図書館や博物館のライブラリーに収蔵されているほか、最近はオンラインでオープンアクセスの雑誌も増えているので、適宜参考にする。
- (3) 引用文献については表記のミスや引用漏れ、記載漏れがよく散見される。投稿前には、実際に引用しているか、あるいは引用文献として書いてあるかを確認する。
- (4) 図表の体裁が不十分なケースが散見される。作成方法が良く判らない場合は、そのまま投稿せずに、編集事務担当へ投稿前に相談すること。

2 原稿の体裁

- (1) 原稿は原則としてパソコンの文書作成ソフトウェア（Microsoft Word）か、それに対応したソフトウェアで作成する。ファイルの設定はA4判縦長型、左横書きで、文字サイズは10.5ポイント、行間は2.0行（ダブルスペース）、余白は上下左右30 mm以上とする。文章は両端揃えで、字体の指定（ボールドやイタリック）や文字飾りは文書作成ソフトウェア上で行う。文字のフォントは和文については「MS 明朝」、英文と数字については「Century」とする。原稿には頁番号及び行番号（1頁から通し番号）を挿入する。
- (2) 英数字は半角とし、句点、読点はそれぞれ全角で（。）および（、）とする。
- (3) 文章は「である」体を用いるが、謝辞についてはその限りではない。
- (4) 数量を表す数字はアラビア数字とする。
- (5) タイトルの下には英文タイトルをいれる。タイトルと英文タイトルは原稿の1ページ目に書き入れ、本文は2ページ目から始める。また、著者は任意で英文のアブストラク

ト（要旨）を加えることができるが、これについてはネイティブスピーカーか、民間の英文校閲業者によって英文校閲を受けるものとする。論文が受理された際は、校閲を受けたことを証明できる文章（領収書や手紙など）を編集者へ提出し、校閲済である旨を伝える。

- (6) 著者の所属機関を原稿の末尾に入れる。所属がない場合は自宅などの連絡先を入れるが、ウェブサイトでの公開を前提として、市町村名に留める。
- (7) 論文の区分は、原著論文、総説、報告、研究史の4区分とし、原則、タイトル、著者名、緒言、材料と方法、結果（と）考察、謝辞、引用文献の順で作成し、図表がある場合は解説を末尾につける。原稿の区分は投稿カードに記入する。論文の区分の説明は下記の通りである。

- ・原著論文・・・一つの主題を扱い、オリジナルデータに基づく結果と考察を伴うもの。
- ・総説・・・特定の分野やテーマに関して、既に公表された知見（先行研究）を整理し、体系立ててまとめたもの。課題等の解決にむけたアプローチを示すこともある。
- ・報告・・・原著論文、総説、研究史を除く自然史科学に関する報告論文。資料目録や注釈付きリストなどが含まれる。
- ・研究史・・・特定の分野や人、テーマに関する研究史。

- (8) 原稿量の制限はないが、冗長な文章は避けること。
- (9) 学名はイタリック体とし、下線は引かない（命名者はイタリックにしない）。命名者が複数からなる場合、&を用い、and や et は用いない。

（例） *Oryzias sakaizumii* Asai, Senou & Hosoya, 2012

- (10) 見出しはゴシック体とする。

（例） 緒言 結果と考察

- (11) 人名の2字目以降のスモールキャピタル（小型英大文字）化は行わず、小文字にする。

（例） TAGUCHI (×) → Taguchi (○)

本文中での文献の引用は、著者名と年号（必要に応じてカッコに入れる）を明記する。カッコは全角、年号の数字は半角で書く（引用文献も同様）。

（文献引用の記載例：◇は半角スペースを表す）

笠間・山下（2005）、田中ほか（2000）、Katsuyama◇&◇Koba（1998）、Katsuyama◇*et al.*◇（1998）

A 報告を主語にする場合の例

（例）田中ほか（2000）によると…

B 報告を引用する場合の例

（例）～のような記録が報告されている（笠間・山下,◇2005）

3 引用文献

本文中における引用文献の配列は、時系列に従う。その際、第2著者以下は省略して「ほか」（海外の論文では「*et al.*」）とするが、共著を区別する必要がある場合はその限りではない。同一著者による複数の文献の配列については、出版年を「,◇」で区切り、著者の異なる複数の文献は「;◇」で区切る（◇は半角スペースを表す）。

（例） Katsuyama, 1998,◇1999;◇Koba,◇1999

引用文献は、本文末に一括し、著者数にかかわらず著者名のアルファベット順に配列する。第1著者が同じ共著の場合は、第2著者以下の著者名のアルファベット順とする。同一著者の場合は時系列とし、同一年に公表された同一著者の著作は日付順に a、b、c を付して区別する。

配列例（ABC は著者を示す）

A,◇2017.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.

A,◇2018.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.

A・B,◇2016.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.（和文の場合）

A◇&◇B,◇2016.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.（英文の場合）

B,◇2015.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.

C,◇2010a.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.

C,◇2010b.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.

C,◇2011.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.

C・A・B,◇2006.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.（和文の場合）

C,◇A◇&◇B,◇2008.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.（英文の場合）

C,◇A◇&◇B,◇2011.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.（英文の場合）

C◇&◇B,◇2004.◇タイトル.◇雑誌名,◇巻(号):◇xxx-xxx.（英文の場合）

引用文献の体裁は、雑誌の場合、著者、発行年（西暦）、表題、雑誌名、巻、号、頁の順とする。雑誌の巻数はボールド（太字）とし、号数はボールドとせずに括弧で囲む。雑誌名は省略せず、完記する。欧文雑誌名はイタリックとする（下に示した記載例の(1)イ参照）。単行本の場合は著者、発行年（西暦）、頁構成、出版社名、発行地とする。ピリオド、カンマ、コロンの、セミコロン、括弧は全て半角とし、括弧の始まり以外は半角スペースを後ろに入れる。ページをつなぐ際はハイフン（-）ではなく、en-dash（–）を用いる。

引用文献の記載例

(1) 雑誌の論文等を引用する場合

ア 和文論文

勝山輝男・田中徳久・大西 亘,◇2013.◇ツェンベリーの日本植物誌に記録された箱根

産植物.◇神奈川県立博物館研究報告◇(自然科学),◇(42):◇35–62.

田中徳久,◇2000.◇足柄上郡中井町のデンジソウ群落.◇神奈川自然誌資料,◇(21):◇13–16.

奥野花代子・濱田隆士,◇2000.◇バリアフリー博物館からユニバーサル・ミュージアムへの過程.◇博物館學雑誌,◇25(2):◇17–32.

イ 英文論文

Mizutani,◇Y.,◇S.◇Shimano◇&◇J.◇Aoki,◇2003.◇A◇new◇species◇of◇*Hermanniella*◇(Acari:◇Oribatida:◇Hermanniellidae)◇from◇forest◇soil◇in◇Tokyo.◇*Journal◇of◇the◇Acarological◇Society◇of◇Japan*,◇12(2):◇87–91.

Watanabe,◇K.◇&◇R.◇Matsumoto,◇2010.◇Disjunctive◇distribution◇of◇the◇basal◇genus◇*Aplomerus*◇(Hymenoptera:◇Ichneumonidae:◇Xoridinae)◇in◇East◇Asia◇and◇North◇America,◇with◇a◇new◇species◇from◇Japan.◇*Entomological◇Science*,◇13(4):◇375–380.◇(DOI:10.1111/j.1479-8298.2010.00397.x)

ウ 他の言語を英訳した論文

Belokobylskij,◇S.◇A.,◇1992.◇[On◇the◇classification◇and◇phylogeny◇of◇braconid◇wasps◇subfamilies◇Doryctinae◇and◇Exothecinae◇(Hymenoptera:◇Braconidae).◇I.◇Classification.]◇*Entomologicheskoe◇Obozrenie*,◇71:◇900–928◇(in◇Russian);◇English◇translation,◇1993.◇*Entomological◇Review*,◇72:◇109–137.

(2) 書籍を引用する場合

ア 和書の一部

新井田秀一,◇1997.◇地球観測衛星.◇神奈川県立生命の星・地球博物館編,◇地球と生きもの 85 話—誕生から 46 億年,◇pp.◇164–165.◇有隣堂,◇横浜.

イ 和書の全体

日本鞘翅目学会編,◇1984.◇日本産カミキリ大図鑑.◇2+565◇pp.◇講談社,◇東京.

ウ 洋書の一部

Bakker,◇R.◇T.,◇1983.◇The◇deer◇flees,◇the◇wolf◇pursuer:◇incongruencies◇in◇predatory-prey◇coevolution.◇In◇Futuyma,◇D.◇J.◇&◇M.◇Slatkin◇(eds.),◇*Coevolution*,◇pp.◇225–285.◇Sinauer◇Associates,◇

Sunderland, ◇ Massachusetts.

エ 洋書の全体（執筆者の分担部分が不明瞭な場合を含む）

Feduccia, ◇ A., ◇ 1999. ◇ The ◇ Origin ◇ and ◇ evolution ◇ of ◇ birds ◇ (2nd edition). ◇
x+466 ◇ pp. ◇ Yale ◇ University ◇ Press, ◇ London.

オ 訳本（内容を引用）

ハンセン ◇ (Hansen, ◇ V. ◇ L.), ◇ 1989. ◇ Geometry ◇ in ◇ nature. ◇ 井川俊彦訳, ◇
1994, ◇ 自然の中の幾何学, ◇ 190 ◇ pp. ◇ トッパン, ◇ 東京.

カ 版および刷による内容の変更があり、かつ初版の情報もあわせて掲載する場合
和書の例

波部忠重, ◇ 1989. ◇ 続原色日本貝類図鑑, ◇ 第20刷 (初版, ◇ 1961). ◇ 66 ◇ pls, ◇ 182 ◇ pp. ◇
保育社, ◇ 大阪.

洋書の例

Stanley, ◇ S. ◇ M., ◇ 005. ◇ Earth ◇ System ◇ History, ◇ 2nd ◇ ed., ◇ 1 ◇ pr. (1 ◇ ed., ◇
1998). ◇ 567 ◇ pp. ◇ W. ◇ H. ◇ Freeman ◇ and ◇ Company, ◇ New ◇ York.

(3) 新聞の引用について

新聞に報道されている内容からオリジナル情報まで辿り、それを引用すべきである。
しかしながら、新聞にしかオリジナルな情報がない場合は本文でわかるように引用
し、引用文献リストには加えない。

(4) 電子文献について

引用文献中に併せて記すものとし、電子ジャーナルの書き方は、著者名、発行年（西
暦）、表題、雑誌名、巻、号、頁、DOI（ない場合はURL）の順に記す。DOIについ
ては、雑誌名の後をいったんピリオドで区切り、ピリオドの後に統一的に「DOI:」
を頭に雑誌が指定する識別子を付す。DOIの末尾にはDOIに含まれている場合を除
き、ピリオドを入れない。CD-ROMなどの情報媒体の書き方は、著者名、発行年
（西暦）、表題、出版社名、出版都市名、媒体とする。ウェブサイトより情報を引用
する場合は、著者（编者）、表題、URL、閲覧した日付の順に記す。

ア 電子ジャーナルより引用

Rahbek, ◇ C. ◇ & ◇ G. ◇ R. ◇ Graves, ◇ 2001. ◇ Multiscale ◇ assessment ◇ of ◇
patterns ◇ of ◇ avian ◇ species ◇ richness. ◇ *Proceedings ◇ of ◇ National ◇
Academy ◇ of ◇ Science*, ◇ USA, ◇ 98: ◇ 4534–4539. ◇ <http://nh.kanagawa->

museum.jp/ (accessed on 2000-August-10).

Watanabe, K., 2017. Revision of the genus *Amphirhachis* Townes, 1970 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae) from Japan. *ZooKeys*, 685: 49-64. DOI: <https://doi.org/10.3897/zookeys.685.13552>

Santos, B. F., 2017. Phylogeny and reclassification of Cryptini (Hymenoptera, Ichneumonidae, Cryptinae), with implications for ichneumonid higher-level classification. *Systematic Entomology*, online first. DOI: 10.1111/syen.12238

イ CD-ROM、DVD-ROM などより引用

Prast, W. & J. Shamoun, 1997. Bird remains identification system. Springer-Verlag, Berlin and Heidelberg. (CD-ROM).

ウ ウェブサイトより引用

神奈川県, online. 神奈川県立生命の星地球博物館, 2004. 神奈川県レッドデータブック 1995 年改訂版. <http://e-tanzawa.agri.pref.kanagawa.jp/rdb/> (accessed on 2005-October-10).

Watanabe K., online. Information station of parasitoid wasps. <http://himebati.jimdo.com/> (accessed on 2013-November-5).

(5) その他

ア. 単行本のようなタイトルが付けられた雑誌 (雑誌として扱う)

神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 神奈川県立博物館調査研究報告 (自然科学), (7): 8 pls, 1-257 pp.

イ. 通し番号が付いている単行本 (国連出版物など。単行本として扱う)

McKay, R. J., 1997. FAO Species catalogue. Vol. 17. Pearl perches of the world. (Family Glaucosomatidae). An annotated and illustrated catalogue of the pearl perches known to date. (Published as FAO Fisheries Synopsis. No. 125, Vol. 17). v+26 pp. Food and Agricultural Organization of the United Nations, Rome.

ウ. 学会の講演要旨 (予稿)

奥野花代子, 1999. 多様な要請に答えうる魅力ある展示づくりを求めて. 全国博物館大会シンポジウム要旨集, 5-7.

エ. 卒論、修論、博論などの学位論文

山崎稲雄, ◇1955. ◇山北西部の地質. ◇横浜国立大学芸学部地学科卒業論文.

4 図・表に関する注意

- (1) 本文中に入れる線描きの挿図および写真を図、記号・文字・横にひかれた罫線のみからなるものを表と呼ぶ。表の上下は太い横線で定められるものとする。
- (2) 図表のサイズは横 170 mm 縦 230 mm 以内とする。画像解像度は線画では 750 dpi、写真では 350 dpi 以上とする。表は Microsoft Excel 等のファイルを直接投稿する。ウェブサイトで公開する PDF ファイルの図は、原稿の色に合わせたものを掲載する。図のファイルは JPEG、TIFF、EPS、PDF あるいは BMP で作成し、パワーポイントのファイルのままでは投稿しない。
- (3) 小さな図が複数ある場合は、写真や図など、それぞれをまとめて一枚のプレートにし、スペースの省略に努める。
- (4) 地図を掲載する場合、県外の方にもわかりやすいよう、地域の拡大図のみの使用は控える。東西南北の北は矢印にし、4 の字型にしない。
- (5) 図には番号をつけ、必要に応じて A, B, C... とする。さらに枝番が必要な場合 A1, A2.. B1, B2... とする。番号や矢印、文字のサイズは印刷時のサイズも勘案して記入する。

5 その他

- (1) 報告に用いる資料は博物館などの公共機関に収蔵し、資料番号をつけること。資料番号については、論文の投稿前に収蔵先の機関と調整し、あらかじめ付しておくこと。また、図示する資料については、資料番号を付記する。
- (2) その他詳細については、最近の号を参考にする。また、不明な点は投稿前に編集事務担当 (URL: <https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1600328475744/index.html>) に問い合わせる。

2020 年 5 月 14 日 改訂

2022 年 5 月 25 日 一部改訂 (プレプリントの扱いの追加、表現の微修正)

2023 年 5 月 31 日 改定 (引用文献の記載例の追加)

2023 年 11 月 2 日 改訂 (問い合わせ先の変更)